日本天文学会秋季年会を広島に迎えて

村　上　忠　敬*

広島では昭和 15 年ごろ日本数学物理学会の総会が開催され，その天文学部会として今の天文学会の年会に相当することが行われたことはあるが，日本天文学会として研究発表を中心とする年会が開かれたことは唯の一回もない．だから此度広島で秋季年会を開くことになったと聴かされたとき実のところチョットした驚きであった．従来は或る学会の年会を地方に“誘致”するためには，会場の確保や会期中の世話は勿論，宿舎から観光案内に至るまで相当な大仕事であったので，広島のような会員の少ないところでは力不足でどうにもならないのが実情であった．それが時代と共に段々無理なことはしなくても済むようになったとはいえ，10 月 7 日からこの広島で日本天文学会の年会を開き天文学者の皆様をこの地にお迎えすることができたということは，わたし達にとっては大きな喜びであった．神無月には全国からやおよろずの神々が出雲の大社に集うということであるが，まさに全国の天文学者が続々とこの広島の地に乗り込んで来られ，天文学からみて広島の地は輝かしい高濃度の貴重な 3 日間を持った次第で，これは記念すべき出来事であった．その間多くの研究者達の新鮮な各方面の研究が次々と発表され熱心な討議が行われて時の移るを忘れさせた．一つ一つの講演を伺っていると観測技術や研究内容の急速且つ格段の進歩がひしひしと感じられ，現在の天文学発達の最前線をほうふつたらしめ，あたかも刻々と変って延びていく植物生長点の映像を見せられる思いがした．地元の天文学に関心を持つ学生や若い人達も参会して漸次会は盛り上り 300 名ほどに達して会場一杯の盛会になって嬉しいことであった．年会の初日は秋晴れの空が皆様をお迎えしたが，その後天気が悪くなったことは却ってホッとしたというところである（いつか年会の最中に彗星が美しく現われたことがあったのを思い出しながら）．

8 日の夕方の懇親会では“広島と天文学”ということが話題になったが，考えてみれば広島は天文学とは可成り縁が深く，今まで本会の年会が開かれなかったのが不思議な位である．元来瀬戸内海地域では昔の瀬戸内水軍と航海天文との深い関わりから天文学に心をひかれる人も多く専門の天文学者になった人も少なくない．わたしは以前親しくしていた石井重雄博士が広島県倉橋島の出身だと承っていたが，石井博士は東京天文台技師として月の運行のような地味な研究に打ち込んだ温厚な学者であった（病いのため早く亡くなったのが惜しまれる）．広島県出身の天文学者といえば，東京天文台長として大活躍されたばかりでなく宇宙開発審議会委員としても大きな仕事をされた宮地政司博士は因島の出身であり，つい先般まで京大花山天文台長として著名な宮本正太郎博士は尾道市の出身である．広島県の出身でなくても広島の学校の卒業生であったり広島に在住したりしたことのある人たちとなると案外数が多い．京都産業大学総長の荒木俊馬先生が旧広島高師を卒えて京大へ進まれたことは知っている人も多いと思うが，若い方々のなかにも旧広島高師・文理大・広高や広島大学などの卒業生を今回の年会出席者のなかに求めるとすると中々の数であり，そのような方々は広島での年会に参会されて同時に旧知の土地への懐しさも味われたのではないかとお察ししている．第一に今回の年会で受付のところで連日お世話下さった東京天文台の森本雅樹・山下泰正・中桐正夫の諸氏は広島の学校の出身者として特にご奉仕して下さった次第であり，京都産大の吉田淳三さんや名大空電研の渡辺堯さん・柴崎清隆さんなど学生時代からの懐しい顔である．東京天文台の古在由秀博士もお母様のご関係で広島に縁があると語られたが，色々な意味で広島に縁のある方々はきっと多いことと思われる．

こうして多くの天文学者の方々をお迎えしてみると，矢張り広島はいつもは天文学会員も少ない淋しいところだということが実感として判ってくる．勿論広島大学理論物理学研究所では元来宇宙論に熱心に取り組んで来られ，その方面の文献も豊富に揃っていて，わたしは幾度か文献を見せて貰うために広島市から竹原市まで出かけたものである．そこの成相秀一博士とは東京などでの天文学会年会へ出席するときよく同じ列車に乗り合せたりしたものだが，広島地方からの出席者はほかには余りなかった．今でも広島大学総合科学部ではわたしが広島大を退いたあとを継いで下さった内海和彦助教授が孤軍奮闘というところである．

天文学は天文学愛好者の上に育っていくことを考えるとアマチュア天文家の動きも無視出来ない．広島では東亜天文学会の総会は戦後 2 回開かれているし，現在では若い人たちが広島天文協会を結成して熱心に勉強している．会場ではその会員なども来聴していたのをみかけたが，講演の内容には難解なものがあったとしても活々とした天文学研究者の発表に深い感銘を覚えたことと思われる．地方都市での年会は多少不便なことがあったりしても，今後どしどし開催して戴いて地方の天文学愛好者たちを力づけ励まして下さるようお願いしておきたい．

* 広島大名誉教授　T. Murakami